

2011年3月7日

## アステラス製薬：環境への取り組み ～アステラス アイルランド ケリー工場 風力発電装置、木質バイオマスボイラーの導入～

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）は、再生可能エネルギーの活用に関する取り組みの一環として、欧州生産子会社であるアステラス アイルランド Co.,Ltd.（本社：アイルランド、ダブリン、以下「アステラス アイルランド」）のケリー工場内に、風力発電装置（出力 800 キロワット）と木質バイオマスボイラー（出力 1.8 メガワット）の建設・導入を決定しましたのでお知らせします。なお、両設備合わせて年間 3,000 トン以上の二酸化炭素排出削減効果が期待できます。

今回建設される予定の風力発電装置は、支柱高 73m、全長 99m、回転翼径 53m で、その能力は出力 800 キロワットにおよびます。2010 年 11 月に地方自治体より建設の許可が下り、2011 年 4 月に着工、2012 年 1 月に完成する予定です。この風力発電装置はケリー工場内の必要電力の約 20% を供給し、年間 1,000 トン以上の二酸化炭素、4 トン以上の窒素酸化物の排出削減効果が期待できます。また、同工場内に導入、設置する予定の木質バイオマスボイラー\*はケリー工場より半径 30km 以内の管理された森林から伐採した木質を燃料として活用することで、年間約 2,000 トンの二酸化炭素の排出削減効果が期待できる設備です。地方自治体より設置の承認取得後、着工を開始し、2012 年 4 月に完成する予定です。

\*バイオマスとはエネルギー源として再利用できる動植物から生まれた有機性資源のこと。  
アステラスアイルランドで導入を計画しているボイラーは間伐材を主な燃料とした木質バイオマスボイラーです。

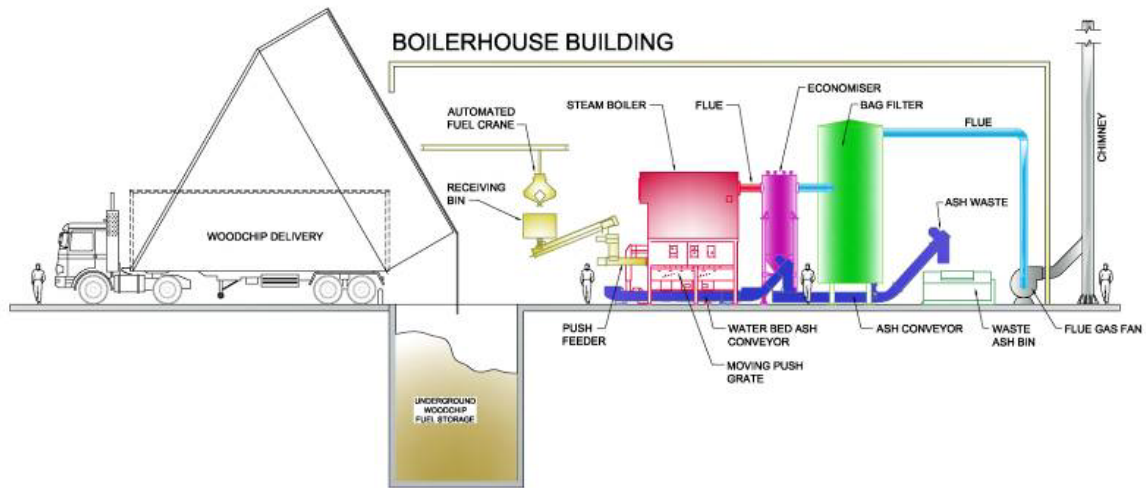
アステラス アイルランドのケリー工場は免疫抑制剤プログラフ®などをグローバルに供給する生産工場で、約 300 人の従業員が当社製品の生産・包装などにあたっています。同工場はグローバル製品の主力工場として安定供給、品質管理を徹底して行っていますが、同時に環境への配慮も行っています。

アステラス製薬にとって地球温暖化対策は、企業活動を継続するうえでの、経営における重要課題として位置付けており、グループ横断の戦略のもとに最先端技術や再生可能エネルギーなどを積極的に取り入れています。国内では自然光の利用など最先端の省エネ技術を取り入れた研究施設の稼働や、燃料転換、ヒートポンプの採用などを進めています。また、MR（医薬情報担当者）が利用する営業車においては、1,596 台のハイブリッド車、5 台の電気自動車導入されています。また、当社で販売するスプレー式の製品では、ノンフロン式の機器を採用するなど、温室効果ガスであるフロン類の使用を抑える対策を行っています。

今回のリリースは、グローバルに取り組みを加速するアステラスグループの地球温暖化対策の具体的な取り組みの一部を紹介したものです。



ケリー工場に設置される予定の風力発電装置のイメージ写真



バイオマスボイラーのイメージ図

お問い合わせ先:
アステラス製薬株式会社
広報部
TEL:03-3244-3201 FAX:03-5201-7473

以上